医 健 第 2843 号 令和5年9月21日

市内医療機関の皆様へ

横浜市保健所長 修 理 淳

インフルエンザの市内流行拡大に伴う注意喚起について(依頼)

日頃から本市の感染症対策に御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。 第 36 週(9月4日~9月10日)からインフルエンザの新しいシーズンが始まり ましたが、本市では、第 36 週(9月4日~9月10日)の定点医療機関当たりの患 者報告数が 4.98 となり、流行開始の目安 (1.0) を上回っているため、 9 月 14 日に インフルエンザの流行拡大について公表しました。

区別の流行状況では、<u>市内全ての区(18区)</u>で、定点医療機関あたりの患者報告数が流行開始の目安を上回っています。

今シーズンの市内でのインフルエンザによる学級閉鎖等の発生は、第 35 週 (8月 28日~9月 3日) から報告されており、第 36 週 (9月 4日~9月 10日) は 28校 (うち小学校 27校) が報告されています。

集団発生の多くは**職員や面会者による持ち込みが発端**となっており、施設に持ち 込ませないための対策が重要です。

ご多忙中のところ誠に恐縮ですが、各医療機関における**対策を徹底**するようお願いいたします。

<添付資料>

2023-24 横浜市インフルエンザ流行情報 1 号

担 当:横浜市医療局健康安全課 電 話:671-2463 FAX:664-7296

E-mail: ir-kenkoukiki@city.yokohama.jp

横浜市インフルエンザ流行情報 1号

横浜市医療局健康安全課/横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

横浜市内でインフルエンザが増加しています

【概況】

2023/2024 シーズン初週である第 36 週 (9 月 4 日~9 月 10 日) の定点あたりの患者報告数^{*1} は、横浜市全体で 4.98 と、第 35 週 (8 月 28 日~9 月 3 日) の 2.70 から増加しました。

学級閉鎖等は、第 35 週から報告されており、第 36 週は 28 件(小学校 27 件、高等学校 I 件)、患者数は 412 人です。

第 36 週の市内迅速診断キットの結果は、<u>A 型 99.4%</u>、<u>B 型 0.6%</u>と、A 型が多く検出されています。

今シーズンは、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行が懸念されます。同時に流行すると、発熱外来がひっ迫する可能性があります。本格的な流行の前に、ワクチン接種、発熱などの体調不良時に備えた検査キットや解熱鎮痛薬の用意、咳エチケットや正しい手洗い*2等、早めの準備*3が重要です。

- ※1 定点あたりの患者報告数とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)から報告された患者数の平均値です。
- ※2 横浜市保健所ホームページ(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)
- ※3 市民向けインフルエンザ予防チラシ(横浜市)
- (参考) インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所)

【市内流行状况】

市全体の定点あたりの患者報告数は、2022/2023 シーズン第 34 週に 1.28、第 35 週は 2.70、2023/2024 シーズン第 36 週は 4.98 と増加し、流行開始の目安となる 1.00 を上回りました。



